

D-12 有松町再開発における歴史的町並み保全の可能性について

第1報 有松町の概況と住民の意識

林学園女子短大 ○市川啓子 聖徳学園女子短大 叶内米子

目的 名古屋市緑区有松町の旧東海道沿いの町並みは、江戸時代から明治の建物が多く、住み良い町をつくるためにはこの歴史的な町並みの特徴を生かした町づくりを行うことが必要である。そこで我々は1971年、1974年と今回(1979年)の住生活調査を行い、新しい町づくりの可能性の検討を試みた。

方法 調査対象地区は名古屋市緑区有松町を中心として、いわゆる旧有松と呼ばれる地区である。ここで言う旧有松とは名鉄名古屋本線と国道1号線にはさまれ、東は祇園寺、西は有染橋までの地域をさし、昔しの有松町、現在の有松町有松より若干狭くなっている。

1971年には住民に対するアンケート調査と旧道沿い住民の建築物調査、住み方調査を行った。1974年、1979年には、生活環境・町並み保全に関する住民意識のアンケート調査を行った。

結果 ①旧東海道沿いの建築物の建設年代をみると、1975年の調査では、江戸期の物が16戸、明治期43戸、大正～昭和戦前期32戸、昭和戦後期32戸となっている。

②住民の職業構成をみると、有松の地場産業であった紋り関係従事者は、他の職種層と同程度の比率しか占めておらず、10%強となっている。

③有松町の古い町並みを保存することについての住民の意識は、「保存した方がよい」と答えた者の割合が、1979年の調査では全体の56.9%で、「保存しなくてもよい」と答えた人は9%である。④保存方法としては、「外観だけを古い姿で残し内部を使いやすく改造する」が3回の調査ともに多くなっている。